特定医療法人 萬生会 キャリアラダー　及び　病院における実践例 （「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」を一部改訂）

看護の核となる実践能力：看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
定義		レベル	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
		レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる。	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報からケアの受け手の全体像としての課題をとらえ、優先度の高いニーズを判断することができる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		実践例	■助言を受けながら、診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集をする。 身体的側面：助言を受けながら、客観的なデータや患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察をし、基本的なフィジカルアセスメントを行う。また、生活上の基本的なニーズに関する情報を患者やその家族から得る。 精神的側面：助言を受けながら、疾患や治療等についての理解を確認しながら不安や恐れ、疑問などの情報を得る。また、言動から認知機能を評価する。 社会的側面：助言を受けながら、経済的な心配や家庭や仕事上の役割などについての情報を得る。 スピリチュアルな側面：助言を受けながら、生活史、価値観や信条、治療についての考え方等の情報を得る。 ■患者の状況から緊急度をとらえ、助言を受けながら緊急度に応じた観察をし、必要な情報を得る。たとえば、致死的不整脈や意識障害など生命の危機に関わる緊急性のある異常を発見できる。	□身体的側面：自立して、患者の状態に合わせてバイタルサイン等の観察や客観的なデータを確認し、フィジカルアセスメントを行うことができる。また、生活上の基本的なニーズに関する情報、生活習慣、住環境を患者やその家族から得ることができる。 □精神的側面：自立して、疾患や治療等についての理解を確認しながら不安や恐れ、疑問などの情報を得ることができる。また、言動から認知機能を評価することができる。 □社会的側面：自立して、経済的な心配や家庭や仕事上の役割などについての情報を得ることができる。 □スピリチュアルな側面：自立して、生活史、価値観や信条、治療についての考え方、生きることのとらえ方やつらさ等の情報を得ることができる。 □診療記録、入退院支援シートなどの枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行うことができる。 □自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の全体像としての課題をとらえることができる。 □看護の優先順位がわかる。	□診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行うことができる。 例）生活習慣など相手の生活を細部までとらえ、患者・家族（または患者を取り巻く人々）の希望も踏まえて、入院生活や退院支援・退院調整に必要な情報を得ることができる。 □正確なフィジカルアセスメントができる。 例）複数疾患、病期、病態を理解し、患者から症状の訴えがあった場合、原因として患者の体内で起っている現象を考えることができる。 □情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえることができる。 □患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に対処ができる。	□患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認したうえで、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる。 ■正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあがることを想定して患者の体内で起こっている現象を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる。また、重症者や多重課題・時間切迫下において、状況や優先度に応じたフィジカルアセスメントを行い、現在の状況判断および予測的な状況判断を説明できる。	■複雑的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる。 ■患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族（または患者を取り巻く人々）の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえる。 ■ニーズに対して地域に不足している機能、支援に気づき、地域連携担当者に働きかけることで解決を図る。
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ、助言を受けながら立案した入退院支援計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個別性に合わせて、立案した入退院支援計画に基づき適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを探知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護及び看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
		実践例	■指導を受けながら、患者に対して手順に沿ったケアを実施する。たとえば、患者の状態に合わせて、助言を受けながら手順をもとに、説明を患者に行い、ケアを実施する。 ■患者に対して基本的生活行動の援助を行う。重症患者や医療依存度の高い患者については、指導を受けて実践する。 ■基本的看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける、看護技術についての到達目標が達成できる。 ■急変時には、対応の場にいて、流れを把握し、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践できる。	□自立してfar以上の患者の課題、既往歴、年齢、性別、社会的役割等を考慮して、助言を受けながら入退院支援計画を立案することできる。 □入退院支援計画に基づいて自立してケアを実践することができる。 □患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践することができる。（観察して患者の状態を把握し、必要に応じて時間調整や疼痛コントロールなどを実践してからケアを行うなど。） □重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践することができる。 □患者に対して指導をする場合、一般的な内容について、網羅して説明することができる。 □急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる。 □実施したケアにより患者のニーズが満たされたか否か、患者の言動、表情から反応を観察し、判断できる。 □実施したケアにより患者のニーズが満たされたか否か、客観的なデータや身体上の変化を観察し判断できる。 □問題点を見つけ、評価及び計画の修正ができる。	□立案した入退院支援計画に基づき患者の個別性に合わせた適切なケアを行うことができる。たとえば、患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践することができる。 □実践したケアや計画の評価を行い、目標達成につながるよう患者の状況に合わせ計画の修正・追加を行うことができる。 □患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することでき、可能な限りの自立を目指しセルフケアできるよう関わることができる。 □患者のニーズを的確にとらえられるこで、複数の患者を受け持つ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる。 □急変時には落ち着いて対応し、家族（または患者を取り巻く人々）等に配慮することができる。	■患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるために幅広い選択肢からの提案やケアの実践ができる。たとえば、患者に対し、疾患の予後と治療による影響と患者の生活や意図、幅広い選択肢の中から適切なケアを提供・実践する。 ■患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる。患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者の思い理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明する。その際、患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案し、患者が主体的にセルフケアに向けて行動できるよう関わることができる。 ■急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。	■どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる。 ■コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる。 ■ケアの開発のための努力を継続して行う。 ■患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。たとえば、患者の疾患の予後と治療による影響により、患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提供する。 ■急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	ケアの受け手が置かれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		実践例	■看護チームの一員であることを理解し、日々の患者へのケアを、他の看護師と協働して行う。常に自らのもつ情報をリーダー看護師に連絡し、患者の状態について報告し、判断できないことや経験のない処置やケアについて相談する。 ■多職種（医師、看護師、認定看護師、薬剤師、栄養士、PT、OT、ST、MSW、CW、NST、緩和ケアチームなど）の役割を理解し、助言を受けながら、ケアに必要な情報を、関係職種より得ることができる。 ■カンファレンスに参加し、発言することで、自のもつ情報を提供して関係者と共有する。	□患者に関わる多職種の役割を理解し、必要に応じて多職種の協力の必要性に気づき、助言を受けながら協力を求めることができる。 □患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を担当医より確認し、患者の訴えや受け止めている思いを多職種に伝えることができる。医療チームに情報共有し、入退院支援の方針と看護チームの担当するケア内容を明確にすることができる。 □カンファレンスに参加し、積極的に発言することで、患者の思いや希望等の必要な情報を多職種と共有することができる。 □カンファレンスに参加し、出された意見をまとめ、実施されたケアを評価、修正できる。	□患者の個別的なニーズに対応するため、多職種連携を進めることができる。患者の現在あるべき状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力を求めることができる。たとえば、入退院支援計画に基づき多職種で実践したケア状況を共有、評価し、目標達成につながるよう計画の修正・追加のための調整ができる。 □入院時から、退院後の生活場所（自宅、連携施設、高齢者介護施設等）について、多職種に提案する等の調整を行う。 □協働する看護師に積極的に情報共有することができる。治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる。定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催する。患者や家族（または患者を取り巻く人々）が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるよう働きかけることができる。	■診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる。 ■多職種との連携においての調整ができる。たとえば、退院支援において、患者の退院後の生活を予測した上で、可能な限りケアをシンプルにし、継続することが必要なケアが適切に訪問看護等の在宅サービスに継続できるよう院内窓口担当者と協働する。また、院内外の多職種による退院前カンファレンスにおいて必要な発言ができ、訪問看護等の在宅サービス担当者の提案や意見を取り入れ、患者や家族の意向を確認しながら合意形成し、必要なケアが適切に継続されるよう行動できる。 ■多職種間の連携において、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、患者に関わることのできるよう連携を促進する。カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートするこができる。 ■患者に対し、起こりうる課題を予測して認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整することができる。	■連携にあたっては全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる。多職種を巻き込み、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、チームの目標を共有し、結果して関わることのできるような連携を促進する。カンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる。 ■看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行う。 ■多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる。 ■自施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる。
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴ゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう行動できる □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向を多職種に代弁できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる □患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう指導できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護し意思決定プロセスを支援できる □患者の立場に立って、患者の知る権利や自己決定権を守るよう指導できる
		実践例	■助言を受けながら、患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を知る。たとえば、患者や家族（または患者を取り巻く人々）の不安を推察し、思いを聞くことに努める必要がある。気づき、思いの表出を促すことはできなくも、頻回に訪室して患者と家族（または患者を取り巻く人々）の話を誠実かつ真摯な態度で、受容的・共感的に聴くことができる。 ■患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を多職種に伝える。たとえば、患者と家族（または患者を取り巻く人々）から希望を聞き、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士などに伝えることができる。	□患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。たとえば、患者と家族（または患者を取り巻く人々）から希望を聞いた際には、その希望の背景や理由についても確認することができる。 □患者や家族（または患者を取り巻く人々）の思いや考え、希望をケアに関連づけ、ケアに反映させることができる。 □説明に対する患者や家族（または患者を取り巻く人々）の認識と医療者の認識のずれに気づき、追加の説明等調整することができる。	□患者や家族（または患者を取り巻く人々）の意思決定に必要な情報を提供することができる。たとえば、療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族（または患者を取り巻く人々）に提案するなどして意思決定を支えることができる。 □患者と家族（または患者を取り巻く人々）にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞くことができる。患者と家族（または患者を取り巻く人々）両者の意向が異なる場合においても、両者の思いを理解し、患者と家族（または患者を取り巻く人々）の現在ある状況を多職種に代弁することができる。 □患者と家族（または患者を取り巻く人々）がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、価値観についての意動を尊重し、誠実かつ真摯な態度で対応しケアに反映させることができる。 □患者の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる。	■患者と家族（または患者を取り巻く人々）の気持ちを引き出したり、意思決定プロセスを促進させることができる。患者と家族（または患者を取り巻く人々）が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることができる。幅広い知識から、様々な案を提示することで、意思決定プロセスを促進させる。 ■患者や家族（または患者を取り巻く人々）、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整する。 ■複雑な意思決定場面において、患者と家族（または患者を取り巻く人々）を尊重し、意思決定されたことが実現するようケアに反映させることができる。 ■患者と家族（または患者を取り巻く人々）の意思決定に変化があった場合にもその選択を尊重し、実現するよう調整しケアに反映させることができる。	■患者と家族（または患者を取り巻く人々）が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に踏み込んで関わるなかで、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる。 ■患者と家族（または患者を取り巻く人々）の思いは日々変化していることを念頭に、意思決定の内容に変化があった場合にもその選択を尊重し、実現するよう調整しケアに反映させることができる。 ■複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる。
組織的な役割遂行能力		レベルの定義	責任の最も軽い、難易度の最も低い、軽微な組織の役割を果たす。看護チームでは、フォローアーやチームメンバーの役割、病棟の係としては簡単なルーチンの係の役割を遂行できる。	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を順守した行動ができる。日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。	所属する職場で、組織的役割が遂行できる。看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、所属部署での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。	看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、病棟での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。所属する職場で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割（学生指導、業務改善係、学習会係、教育委員、リスクマネージメント係など）を遂行できる。看護単位の課題の明確化ができる。	所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。看護単位の課題に対し、具体的解決を図ることができる。
		行動目標	□高生会の理念が理解できる。 □医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解できる。 □目標管理を理解し、助言を受けながら所属部署の目標達成のための個人目標を達成できる。 □チームメンバーの役割を理解し、助言を受けながら実践できる。 □必要時、支援や指導を自ら求めることができる。	□医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる。 □所属部署の目標達成のため、割り当てられた役割を理解し遂行できる。 □個人目標が達成できる。 □時間や物品を効率よく使用することができる。	□医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護することの重要性を理解し行動できる。 □所属部署の目標達成のため、自身の役割を理解し、積極的に取り組み成果をだすことができる。 □入退院支援計画に基づきケア提供ができるよう、チームリーダーとして行動しチームメンバーへ指導できる。	□チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる。 □高生会理念・病院事業計画・看護部門の目標を意識しながら、所属部署の目標達成のための自身の役割行動をとることができる。 □看護師委員会に所属部署の代表として参加し、自身の役割を遂行できる。	□チームメンバーが、医療倫理・看護倫理・職業倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動がとれるよう指導できる。 □高生会理念・病院事業計画・看護部門の目標を意識しながら、所属部署の課題について意見が述べられ、目標設定に関わることができる。 □所属部署の課題についての解決策を率先して実践できる。 □病院委員会に所属部署の代表として参加し、自身の役割を遂行できる。
		実践例	■高生会理念、事業計画、看護部目標、所属部署の目標及び計画について知り、助言を受けながら所属部署の目標達成のための個人目標を設定し、行動計画を立て実践できる。 ■病院の諸規則について知り、行動化できる。 ■業務上の報告・連絡・相談を助言を受けながら適切に行うことができる。 ■医療安全・感染予防の基本的な知識を習得し実践できる。	□所属部署における自身の役割を理解し、個人目標に設定し計画的に遂行できる。 □自身の時間管理ができ、共に働くチームメンバーの行動に気づき必要な支援ができる。 □患者の状態像の変化に応じて必要な医療材料・物品についてリーダー看護師に伝えることができる。 □業務の優先順位を決定でき、必要な報告・連絡・相談を適切に行うことができる。 □医療安全・感染予防の基本的知識・技術に基づき必要な行動をとり、リスクを回避することができる。	□自身の看護ケアがメンバーのモデルとなることができる。 □メンバーの行う看護行為が計画に沿って適切に行われているか指導でき、時にはメンバーの実践の不足を補うことができる。 □チームメンバーと情報や意見交換し、メンバーの能力や業務の進行状況に応じた調整ができる。 □チームメンバーのケア提供状況に応じて支援でき、必要に応じてメンバーからの相談に応る。 □患者の複雑な課題や状況の変化に応じて、カンファレンスを活用するようメンバーに指導できる。 □カンファレンスを通して、後輩に教育的に関わることができる。 □インシデント事例の分析結果に基づき、所属部署の業務改善に取り組むことができる。 □医療安全・感染予防のマニュアルの見直しに積極的に参加する。	■所属部署の目標達成に必要な課題に気づき、改善策について、看護師長へ提案できる。 ■医療安全や感染予防について環境調整や適切な指導ができる。 ■災害時にリーダーシップをとりなから活動できる。	■所属部署の目標達成のために、課題への解決策を率先して実践し、後輩へ必要な指導を行うことができる。 ■病院委員会に所属部署の代表として参加し、意見が述べられ、委員会の決定事項について所属部署の看護師員へ報告し、率先して行動化することでリーダーシップを発揮する。 ■医療安全や感染予防について適切に指導できる。
自己教育・研究能力		レベルの定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる。	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる。	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる。	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる。	単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。 主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる。
		行動目標	□新人看護職員研修ガイドラインに沿って学習する。 □助言を受けながら自己の学習課題を明確にできる。 □看護過程を1事例まとめることができる。	□自己の学習課題を見出し学習計画を設定できる。 □業務改善あるいは研究に取り組む。 □レベルⅠを目指す後輩に対し、適切に支援ができる。	□自身の目指す方向性を意識して、学習活動に積極的に取り組むことができる。 □レベルⅠ及びⅡを目指す看護師や看護学生に対し、適切に指導的関わりを持つことができる。	□自身の目指す方向性を意識して、学習活動に積極的に取り組むことができる。 □看護部門の研修の運営に携わり、後輩の到達目標の達成を支援できる。	□看護部門や病院の研修の運営に携わり、看護部や病院職員の教育に関わることができる。
		実践例	■計画された研修に主体的に参加する。 ■研修で学び未経験の基本的な看護技術について習得を目指し、実際の場面で見学・実施できるよう自ら実施指導者に求めることができる。 ■経験した事例について1事例、看護過程をまとめ所属部署で発表することができる。	□ケア持ち患者の複雑な課題について、カンファレンスを活用して解決策を見い出すことができる。 □自ら院内外の研修に参加し、知識・技術の習得に努め、同僚に伝達できる。 □業務上の改善点に気づき、また、共通の課題を持つメンバーと、チームとして研究的に取り組むことができる。 □レベルⅠを目指す後輩が、発言しやすいよう助言し、必要な情報収集ができるよう支援できる。	□継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、所属部署のケアの質向上に活かすことができる。 □レベルⅠ及びⅡを目指す看護師に対し、対象にあったケア計画・実践・評価ができるよう意図的、継続的に指導できる。 □看護学生に対し、実習目的に応じた支援ができる。 □自己で研究テーマを見出し、研究チームの中で中心的役割を担うことができる。	■看護部門の主催する研修の企画意図を理解し、受講者の研修目標が達成するよう研修内容・方法を検討、準備・運営することできる。 ■継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、看護部全体のケアの質向上に活かすことができる。 ■研究の中心的役割を担い、研究を通し業務改善を推進できる。	■看護部門や病院の主催する研修の企画意図を理解し、受講者の研修目標が達成するよう準備・運営し、講師を務めることができる。 ■看護上、困難な患者に対して看護実践を通して、後輩に対して教育的役割を担うことができる。 ■継続的に院内外の研修や学会に参加し、知識・技術の向上に努め、同僚に伝達し、病院全体のケアの質向上に活かすことができる。 ■研究のリーダー的役割を担い、研究を通し業務改善を推進できる。